

サイボーグザラス。注射された身体のバイオ・ナノ監視装置？

ユルヴォグ・デイビッド¹：訳

ジョンソン・リサ² & ブラウディ・ダニエル³：著

要 約

バイオテクノロジー、ナノテクノロジー、材料科学の文献を調査し、批判的に分析することで、高度に区分された知識共同体によって大きく分断された世界において人類が直面する大きな脅威について、重要な洞察を得ることができる。COVID-19の内科的合併症に対処すると主張する注射可能なmRNAプラットフォームによって人間にもたらされる、既に十分調査され証明されている問題についての学際的研究は、詐欺と欺瞞の驚くべき、そして非常に憂慮すべき新しい証拠を明らかにしている。ここで紹介する分析結果は、ワクチンを注射された被験者の血液サンプルを用いた実験室での研究と、人体に現れる電磁気的特性に関する観測現象の潜在的な理由を探る実験研究の両方を補強するものである。この分野横断的な研究のきっかけとなったのは、現在、かなりの割合のワクチン接種者がBluetooth通信ネットワークに対応する周波数帯の英数字信号を発しているとの報告である。これらの奇妙な現象についての議論は、新興産業としてのナノテクノロジーにおけるより広範囲の歴史的背景および、皮膚の下の監視と市民権・人権の消失に関して著名人から発せられた最近の語録によって組み立てられている。

キーワード：バイオ・ナノ時代、Bluetooth接続、IoB、IoBNT、IoT、IoNT、MAC現象、mRNAプラットフォーム、トランスヒューマニズム

はじめに

本論文は、「Syllogistic Reasoning Demystifies Evidence of COVID-19 Vaccine Constituents」(Broudy & Kyrie, 2021) と題した以前の論文で行われた学際的研究を拡張するものである。その論文で、我々は、主流メディア（ゆえに世論）においてワクチンを装いつづけるmRNA「プラットフォーム」(Moderna, 2020) の開発に明らかに寄与した、崩壊した論拠を越える問題に取り組んだ。これらの新しい注射用プラットフォームが、「成人突然死症候群」(Enerio, 2022) のみならず、磁気に似た奇妙な反応を引き起こすという、さまざまな代替メディアで行われている無数の主張の解明に取り組むことが必要であると、我々は感じた。

この研究により、ワクチン、あるいはワクチンのふりをした技術的プラットフォームに関する誠実でオー

ブンな分析は、建前だけの対話を組み立て導く主流メディアのゲートキーパーがほとんど認めていない、さらに大きなアジェンダに関する批判的な議論も含まなければならないという結論に達した。「ワクチン」(以下、「プラットフォーム」) は、モノと身体の商品化に必要なグローバルな通信網の構築のまさに中心にある (Sinclair et al.)。数十年にわたってワクチン開発を導いてきた概念的な作業は、アジュバントのまったく新しい送達システムに明らかに移行しており (Cao et al., 2020)、それに含まれる物質は今日、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、材料科学における進行中の研究から引き出されたものである。したがって、バイオ・ナノ時代 (Bushnell, 2001) は、理論から実践へと移行したが、それは、人工と自然のあらゆるものを金融化する銀行と大企業 (WEF, 2020, p. 10) の力をほとんど知らされていない世界中の人々の十分

¹ ユルヴォグ・デイビッド准教授：翻訳と日本国憲法を専門とする准教授。

² ジョンソン・リサ博士：ペンネームで、カイリー・ヴァレリーの名前を用いている。ジョンソン・リサ博士は、臨床心理士。彼女は、操作、行動修正および知覚管理の専門知識を有している。

³ ブラウディ・ダニエル博士：応用言語学の教授。彼は、大衆を説得し、欺くことを目的とした心理的ツールとしての記号、画像、色の批判的分析の専門知識を持つ。なお、邦訳に関しては、ナカモト・オットー氏にも尽力いただいた。ナカモト・オットー氏は経営管理のバックグラウンドを持つ独立した学者 (freelance translator) である。この名前はペンネーム記載である。同氏は、2022年8月に出版された「Cyborgs R Us: The BioNano Panopticon of Injected Bodies」(The International Journal of Vaccine Theory, Practice, and Research) の主な邦訳を担当した。

^{注)} なお、本稿は、カイリー・ヴァレリー博士 (freelance writer) とナカモト・オットー氏の助言を得て、完成に至ったものとなっている。

な認識と同意無しに行われた。スピード、セキュリティ、安全性、効率といった先導的な概念が、あらゆるものを超えて、生命そのものよりも価値があるという誤った信念に支配された世界では、なおのこと、この移行はまったく理にかなっている。

このような論説の分析を提示し、バイオ・ナノ時代の兆候を明らかにするために、まず、今日では決して劇場公開されないであろう、ある映画作品の重要なシーンについて、少し長い言及をすることにする。このシーンでは、ある大手メディア企業のニュースキャスターが、台本から外れて大衆に真実を語ったために、その企業の社長から厳しく非難される場面がある。

自然の原動力に干渉したんだ、ビール君。そんなことは許されない、わかるか？！単に商取引を止めただけだと思ってるんだろうが、そうじゃないんだ！アラブ人はこの国から何十億ドルも奪ったが、今度はそれを元に戻さなければならないのだ。潮の干満、潮汐の重力、生態系のバランスなのだ！君は国家や民族で考える古い人間だ。国家は存在しない！民族もない！ロシア人はいない。ロシア人もいなければ、アラブ人もいない。第三世界もない！西洋もない！各々のシステムの集合体としてのただ1つの全体的なシステム、1つの広大で内在的な、織り込まれた、相互作用する、多変量の、多国籍の支配であるドルがあるだけだ。...この地球上の生命の総体を決定するのは、通貨の国際システムなのだ！それが今日の自然の摂理である。それが今日の原子、素粒子、銀河の構造なのだ。そして、君は自然の原動力に干渉したのだ。...君はそれを償うことになる。

(一時停止)

もはや国家やイデオロギーの世界ではないのだよ、ビール君。世界は企業体の集まりであり、不変のビジネス規則によって決定されているのだ。世界はビジネスなのだ、ビール君！人間が泥の中から這い出てきた時からそうだった。そして我々の子供たちは、戦争も飢餓もなく、抑圧も残虐もない完璧な世界を見るために生きているのだ。

一つの巨大で普遍的な持ち株会社のためにすべての人が働き、共通の利益に貢献する。その中で、すべての人が株を持ち、すべての必需品を供給し、すべての心配を静め、すべての退屈を楽しませるのだ。この福音を伝えるために私は君を選んだのだ、ビール君。

この企業メディアの幹部と無名の新米との熱のこもったやりとりは、今日の世界について何を教えてくれるのだろうか。まず、シドニー・ルメットの1976年の名監督作品『ネットワーク』(Chayefsky, 1976)が、この映画が劇場公開された当時はほんの子供だった世界経済フォーラムから発せられる熱狂的な伝道主義と闘う現代社会にとって、どのような意味を持つのか推し量ることは難しい。また、ビール氏が語ったような、今日最も雄弁な世界の伝道者が、まさに『ネットワーク』のデビューと同じ年に生まれていることも、興味深い皮肉であろう。『ニューヨーク・タイムズ』紙の欧州ビジネス特派員長に「世界で最も影響力のある未来史家」(Harari, 2021a)と称されたユヴァル・ノア・ハラリは、映画の中でビール氏の敵役と同じような熱意で人間の意味や目的を軽蔑している。

この映画『ネットワーク』は、現時点で最も重要な研究分野であろうコミュニケーションとプロパガンダの研究者にとって、世界中で起きている政治および医学の神秘化のプロセスを分解するための、緊急のメッセージとして、今日読み取れる。この映画は現在を映す鏡である。ネットワーク化されたコミュニケーション、権力関係のネットワーク、そしてワクチン注射により「グローバルな中枢神経系」(Broudy & Arakaki, 2020)に統合された生体のネットワークを文字どおり、また比喩的にも表現しているのである。人類の歴史上、現代ほど人間性とその自由および主権に重くのしかかる暴政はないと言っても過言ではない。高度に組織化された欺瞞、抑圧、収奪のさまざまな形態が、利他的な医療介入というシニカルな隠れ蓑の下に「見事にカモフラージュ」(Kyrie & Broudy, 2022)されている。本稿では、役員室のビール氏のように、このグローバルな「ビジネス」が用いる現在のメッセージングと戦術について考察し、その真意を明らかにする。

医療化された人口抑制のグローバルネットワーク？

自然権や市民権を完全に奪うことが人類の計画であるなら (Auken, 2020)、統合と扇動のプロパガンダの組織的プログラムは、WHO、CDC、FDAが維持する医療像に対する認識を上手く管理し、腐敗した企業科学と組織的検閲活動という経験的実在を覆い隠すために作り上げた理想世界のメディア操作を維持するために絶え間なく働かなければならない。言語とその他すべての「言説的・提示的象徴」(Langer, 1957)は、意味が定義されるまさにその基盤を形成しているがゆえ、主要な象徴はこれらの全体化する権力によって制御・指示されることになる (Broudy & Kyrie, 2022)。

マルクスが世界中の労働者に生産手段を奪取するために団結するよう呼びかけたことは、人類全体に共有されているより根本的な懸念-生命そのものを再生産する自由意志を行使する人々の自然権-を露呈していると、我々は主張する。この基本的な権利がなければ、人間と人間の目的は生産手段の所有者によって実質的に損なわれかねない。ピーター・フィリップスはこのことを認識し、C・ライト・ミルズの『パワー・エリート』(1956年)における研究を発展させ、今日のグローバル化時代の権力の新しい秩序に対する重要な批判を展開した。フィリップスは、こうした新しいエリートを、世界とその資源を束ね・導く技術的手段を支配することによって、政治、社会、経済の秩序を効果的に支配する「巨人」(2018)の超国家組織と呼んでいる。西洋では、オリバー・ボイド＝バレットが指摘するように、これらの巨人は「MICIMATT」--Military軍産・Industrial企業・Congressional議会・Intelligence情報・Mediaメディア・Thinktank complexシンクタンク複合体--「外交政策を決定する高慢すぎて我慢ならない悪夢」(2022)の活動に位置づけることができる。

過去において、このレベルの影響力は主に生産手段の管理という名目で現れていたが、今日、その影響力は「生命の再生産」手段の管理という前例のないレベルまで進んでいる。私たちは、何年もの間、公的な場において、主導的な物語であり責務であると主張され、巨人が世界人口の増加を抑制するために薄いベールに包まれた脅威を発するのを目にしてきた。

ビル・ゲイツは以前から、彼の財団を通し投資してきた遺伝子工学ベンチャーやワクチン研究開発を、人

口集中地区の出生率の管理（あるいは抑制）に利用しているのではないかと疑われてきたが、今日では業界のリーダーが、人類の意味や目的そのものについて大胆な主張を展開しているのを確認できる。このような疑惑は、ゲイツが人口問題に対して率直な懸念を表明し、人口過剰の神話を絶え間なく作り出し、人類の再生産の裁定者としての役割を自任しているからこそ生まれたのであろう。ゲイツに限らず、より広い意味で、人間の価値を再調整するためのフォーミュラが、エリートたちの策略の中に次第に明らかになりつつある。彼らは、主流メディアの強力な言論手段への容易でオープンなアクセスをうまく利用し、自己嫌悪を広く植え付け、人間性を奪うプロパガンダを実践し、人間を魅了してあらゆるテクノロジーのアップデートを喜んで自分の身体に注入されるか、さもなければ自分の身体に組み込まれる者として奉仕させるのである。

人間のトランスフォーメーションについて

世界は移行期（トランジション）にある。トランスフォーマー、トランスジェンダー、トランスヒューマニスト、トランスプランテーション、トランスナショナルリズムから、トランスアスリート、トランジエント・コミュニティ、新しいバイオナノベクターによる病気のトランスミッションへ。

たとえば、世界経済フォーラムにおける預言者であるユヴァル・ノア・ハラリをはじめ、マーク・ザッカーバーグ、ビル・ゲイツ、バラク・オバマ、ハーバード大学、スタンフォード大学など多数は、不純物のない人間はまもなく多国籍・巨人にとって十分に価値がなくなり、人類は再設計に抜本的に移行しなければならないだろうと示唆している (Miller, 2018)。このような必要性を主張する大胆さは、『トワイライト・ゾーン』の「時代遅れの男」で考えられている奇妙な反人間的世界と同等に見えるかもしれないが、ハラリの主張はフィクションに基づくものではなく、むしろ「論理は敵、真実は脅威」(Serling, 1961)というグローバル社会の環境下でのものである。2016年、この著名な歴史学者は王立研究所 (2022年) で、「人間の究極の価値は、まったく何の役にも立たないただの消費者というだけだろう--だが、経済には消費者が必要だ。しかし、人間ではない、意識のない消費者と成りうる」と語った。(Harari, 2016年)。

電気や石油製品を消費する機械は、ハラリの計算には含まれないと思われる。さらに彼は、アルゴリズムによって管理された企業同士が取引するシナリオを説明し、「企業は取引し、何十億ドルも稼ぐが、そこに人間は一切必要ない」と説明する。もちろん、この病的な思考を支える前提条件は、ウェンディ・ブラウンによって効果的に分解されている：「...新自由主義の合理性は、「市場のモデル」をすべての領域と活動--お金が介在しないところも含め--に広め、人間を市場の役者として、常に、唯一、どこでも「ホモ・エコノミクス」として徹底的に消耗する」(Brown, 2015年)。

ハラリによれば、その結末は、彼が「無意味-無価値」(Harari, 2015a)と表現した、ドルの支配下で価値を持たず、ビジネスの規約のもとで、存在する固有の権利を持たない「役に立たない人々」の階級となるだろう。彼は2015bでこう見解を述べている。

人間が経済にとって有用でなくなったとき、どうすればいいのか、聖書には答えがない。まったく新しいイデオロギー、まったく新しい宗教が必要であり、それらはシリコンバレーから生まれる可能性が高い。

シリコンバレーのカルト教団は、技術的な世界の支配者を超国家的な巨人の地位から神々に昇格させると、ハラリ氏は言う。「私たちは明らかに人間を神々に昇格させているのです」と彼は言う (Harari, 2020a)。彼は、われわれは

...神を超えることさえある。聖書を信じたとしても、聖書の神が創造できたのは有機物だけだ・・・いま私たちは無機生命を創造しようとしている・・・私たちがやろうとしていることを表現するには神性では足りない・・・私たちは聖書の神よりはるかに優れている (Harari, 2017)

と得意がる。となると、疑問が生じてくる。無機生命体の新しい「より優れた」神々は、私たち劣等な有機生命体をどうするのだろうか？

「私たちが開発しているテクノロジーの巨大な力を考えると、シナリオは2つしかない。」、ハラリはこう宣告している。

ひとつは、その技術が人類を滅ぼすというシナリオ。可能性は低いと思いますが、それでもあり得ます。可能性が高いのは、テクノロジーが人類を大きく変えてしまうというシナリオです。私たちはAIと生物学を使ってホモ・サピエンスを変え、私たちがネアンデルタール人やチンパンジーと異なる以上に、私たちと異なる新しい種類の生物を作り出すでしょう... (Harari, 2020b)。私たちはおそらくホモ・サピエンスの最後の世代の一つである (Harari, 2018a) ...もしあなたが十分に速く改革に参加しないのなら、おそらくあなたは絶滅するでしょう (Harari, 2015a)。

絶滅する？ホモ・サピエンスが変化する？新しい種類の存在を作る？どのような存在か？

新しいテクノロジーがもたらす最も重要なインパクトは、人類の意味そのものを変え、生命というゲームの基本的なルールを変えてしまうことかもしれません。40億年という非常に長い間、生命の基本的なルールは何も変わりませんでした。この膨大な期間の間、すべての生命は自然淘汰と有機生化学の法則に従っていました...しかし、今後数十年の間に、それが変わろうとしているのです。科学は、自然淘汰をインテリジェント・デザインに置き換えようとしている...雲の上のどこかの神のインテリジェント・デザインではなく、我々のインテリジェント・デザインです、と (Harari, 2018b)。

「インテリジェント・デザイン」という言葉を聞いて、「多くの人の脳裏にすぐに浮かぶのは、すべての生命体は神によってデザインされているという創造論者の考えで、ゆえに『インテリジェント・デザインという言葉は使ってはいけない』と言われることもある。しかし、私たちがこれから世界で目にするものこそがインテリジェント・デザインであり、聖書の神のインテリジェント・デザインではないだけだ」(Harari, 2018c)と彼は述べた。

経済のために生物学的生命、社会関係、人間文明を再構築することをハイテク界の巨匠に託して人類の歴史を上書きしようとするのがインテリジェントなこ

とか、愚かなことかは、ハラリにとって一つの哲学的な問いであり、思索を深めるにはあまりに遠すぎる。

「エコノミー™」が人間のために機能しなくなったとき、人類ではなく「エコノミー™」が変わるべきなのか、という疑問も同様である。その代わりに、人工「知能」、「スマート」シティ、「スマート」カー、「スマート」爆弾、「スマート」電話の出現によって、技術的デザインが「インテリジェント」であることが積極的に売り出される一方で、シリコンバレーの人類に対する不自然なデザインの知恵は、信仰の対象として受け止められている。それは、ハラリによって概説されたカルト・テクノクラシーのドグマである。結局のところ、ホモ・サピエンスに関する本を実際に書いた人物に、誰がどうやって反論できるだろう？

しかし、ハラリ博士が考えている「インテリジェント」デザインとは、どのようなものなのだろうか。

今、私たちは既に人間を再デザインする技術的能力を所有しているのです。無機的方法、つまり人間をコンピューターに、脳をコンピューターに、あるいは完全に無機的な存在である人工知能、おそらく人工意識さえも作り出すことができるようになったのです。遺伝子工学は、何十億年もの間、進化が遊んできたのと同じ断片を遊んでいるに過ぎないとも言えます。これは全く新しいことで、本当に無機的な存在を作り出すことなのです (Harari, 2022年)。

新しい無機質な存在？今、すでに？

今、人間はこれまで以上に大きな力を身につけようとしています。私たちは、創造と破壊の神通力を本当に獲得しているのです。私たちは本当に人間を神々にアップグレードしているのです。たとえば、生命を再構築する力を手に入れつつあるのです (Harari, 2020a)。

その神のような力は、道徳でも経験的現実の把握でもなく、科学に宿るのだとハラリは詳しく説明した。「科学は真理ではなく、権力なのだ」と彼は言う。「プロジェクトとしての、つまり体制としての科学の本当の目的は、現実ではなく、力なのです」(Harari,

2015b)。

科学的エスタブリッシュメントの権力を手に入れたハラリは、シリコンバレーの神々が、今日の人間の資質--魂、アイデンティティ、自由意志--を、昨日の古風だが不明瞭な人間の異変というスクラップの山に追いやる未来を予見しているのである。このプロセスは、人間を有機的な炭素ベースの生命体から、テクノクラートの巨人たちによって部分的または全体的に所有される合成サイボーグへと移行させる、計画的陳腐化の高度に組織化されたプログラムの一部なのである。

今回の製品は、繊維でも機械でも乗り物でも武器でもない。今回の製品は人間そのものになる。私たちは基本的に、肉体と精神を生産することを学んでいるのです (Harari, 2015a)。

ハラリの描くシリコンバレーの神々が支配するテクノトピアでは、それらの人間は自分自身のためではなく、製造者のコードに従って考え、行動することになる。

何を勉強するか、どこで働くか、誰と結婚するか、誰に投票するかなど、人々の人生における重要な決断を、自分自身が何をすべきかを判断するよりも優れたアルゴリズムがそこにある……。そして人々は、そんなことはあり得ないと思っている。人間はあまりにも複雑です。私たちには魂があります。精神がある。人間の魂や自由意志のような神秘的なものを、アルゴリズムが解明することは出来ない。しかし、私はこれは18世紀の神話だと思います……。今、あるいはごく近いうちに、私たちはそれを実現する技術を手に入れるでしょう (Harari, 2018d)。

脳とコンピュータの間に直接、優れた双方向通信システムがあれば、複数の脳をつなげて脳間ネットを作ることもしよう。そして、これがアイデンティティのようなものにとってどういう意味を持つのか、誰も知らないのです。他人の脳に直接アクセスできる時、自分は何者なのでしょう (Harari, 2018c)。

私たちは一体何者なのだろうか。そして、グローバ

ルな脳間ネットワークのノードとして、人間性を与えられた自然人として享受したのと同じ権利を期待する私たちは誰なのでしょう？尊厳、自律性、主体性、プライバシー ……。

「歴史上初めて、プライバシーを完全に排除することが可能になったのです」。ニューヨーク・タイムズ、マイクロソフト、フェイスブック、アマゾンと提携しているアテネ・デモクラシー・フォーラムで、ハラリは次のように語っている。「以前は決して不可能だったことが、今では可能になったのです。根本的なことが変わったのです。独裁者たちは、プライバシーを完全に排除することを常に夢見ていました。技術的に不可能だったからできなかったのです。それが今は可能です」(Harari, 2021a)。

今、私たちは、プライバシーを消し去ることが技術的に可能であると断言されているのだろうか？どうしてそうなのだろうか。なぜこのような身体の自治の崩壊がこれほどまでに熱心に推進されるのであろうか。

可能性の時間軸の分析

2020年4月14日、世界保健機関がCOVID-19をパンデミックと宣言してからわずか13日後、ハラリは、COVID-19への世界的な対応により、「監視の性質に変化が起きている」と説明した。「以前は、監視は主に皮膚の上で行われていました。それが今では、皮膚の下にまで入り込んでいきます。政府は、私たちがどこに行き、誰と会うかだけでなく、何よりも、私たちの皮膚の下で何が起きているかを知りたがっているのです」(Harari, 2020c)。

マイクロソフトの社長とのパネルディスカッションで、「すべてが監視されるようになった瞬間だ」と彼は後に付け加えた。「私たちが、常に監視されることに同意した瞬間だった」(Harari, 2020d)。

それは、私たちが？ 私たちがしたのか？

ハラリは、『パンデミック™』の序盤、2020年4月16日にThe Late Late Showでこう語っている。

今起きていることは、監視の歴史においてまさ

に分水嶺です。まず、これまで抵抗していた民主主義国家に大衆監視システムが入り込み、採用されていることがわかります。第二に、監視の性質が、皮膚の上からの監視から皮膚の下からの監視へと変化していることがわかります (Harari, 2020e)。

ハラリは、2020年5月にBBC Hard Talkで語った「皮膚の下での監視」とは、単に体温や心拍数といった医学的な測定値を意味するのではないと説明した。皮膚の下での監視によって、政府や企業は、われわれが何をしているかだけでなく、何をしているときに何を考え、何を感じているかを監視できるようになり、「私が自分自身を知る以上に、私を知る」ようになると、彼は強調している (Harari, 2020f)。

「皮膚の下での監視ができれば、それがわかる」と彼は言う。「感情や感覚は、熱と同じように生物学的な現象だからだ」。ハラリはさらに、「人々は100年後に振り返って、コロナウイルスの流行が、新しい監視体制、特に皮膚の下での監視が支配された瞬間だと特定できるだろう」とも考えている。「これは、21世紀の最も重要な出来事だと思います」(Harari, 2020f)。

ハラリは聖書の預言者のようなものなのだろうか。いったい何を語っているのだろうか？ 2020年の4月から5月にかけては、市民はまだ「感染の波を平らにする」ために「自主隔離」し、病院システムに不必要な負担をかけないようにしていた。あるいは、そう考えていた。

しかし、COVID-19という緊急事態を隠れ蓑にした監視とデータ収集の「分水嶺」は、人間を「ハッキングできる動物」にしてしまったと、ハラリはその後何度も述べている。そのため、人間の魂や精神、自由意志といったものは不必要であり、時代錯誤であると彼は考えている。

政府や企業は歴史上初めて、人間を要するにハッキングする力を持つようになった…人間は今やハッキングできる動物だ」と彼は観察している (Harari, 2021b)。

人間には魂や精神があり、自由意志があるという考え方は、もう「終わった」のだ (Harari, 2021b)。

ハラリーのような学者が、なぜ人間について、感覚を持つ生物学的生命体のカテゴリーであり、彼もまたそれに属していると思われる人間について、このような奇妙な主張をするのか、傍目には不可解に映るかもしれない。彼の描写は、『時代遅れの男』のエピソードに登場する国家議長を思い起こさせる。彼は無情にも司書に死刑を宣告したが、彼もまた最終的には粛清を宣告された「別の時代からの亡霊」であると判断されたのである。この全体主義的な警告は、今日のテクノクラートの秩序がもたらす最新の実存的な脅威へと私たちを導く。COVID-19に対しては、統合的なプロパガンダによって、人々は医学的な脅威と厳密に医学的な答えに焦点を合わせてきたが、ナノテクノロジーの領域の調査によって、ハラリーのより不可解な宣言の背後にある可能性のある意味に光が当てられるようになった。

COVID-19が皮膚の下に監視装置を送り込み、プライバシーと自由意志は「終わった」ことになり、「21世紀の最も重要な発展」を意味するという特に大胆な主張は、おそらくCOVID-19ワクチンで送り込まれると想定される体内ネットワークという観点から理解できるかもしれない。

確かに、テクノクラートの巨人が科学を武器にして、人類に秘密裏にトランスヒューマニズム・プラットフォームを注入する可能性は、あまりに非道であると思われる。サイエンス・フィクションの世界から大胆に飛び出した現実、科学的な仮説というよりも、むしろ「陰謀論」の域に達しているのではないだろうか。

しかし、「世界で最も影響力のある未来史家」が、世界のテクノクラートの巨人に対して、人間生物学の征服と、人間を魂のない製品に変えることが進行中であると断言するための強力な舞台を満喫していることは事実である。人間の脳は今やシリコンバレーに、身体は科学に属する。ホモ・サピエンスはほとんど絶滅し、COVID-19は国家監視が表皮の境界を突破し、心の神経生命に関わる「重大な分岐点」となる。世界的な舞台で、生命がフィクションを模倣している。誇大妄想は今や経験的な現実と政治的実体の本質である。サイエンス™は権力であり、権力はサイエンス™である。病気は健康であり、健康は病気である。安全とは危険である。隔離は結合である。拘束は自由である。1984年はフィクション。2022年は現実である。

「ソーシャル」コネクティビティを得る新しい方法

COVID-19の治療介入が皮下投与されるやいなや、ハラリーが言及した監視の兆候が世論に出始めた。COVID-19ワクチンを注射された者からBluetooth信号が発せられるという逸話的観察に続いて、2021年11月、国際研究団体が制御条件下でこれらの現象を調査した (Sarlangue et al., 2021年)。彼らの研究は、かなりの割合のワクチン接種者がBluetooth信号に対応する周波数帯の英数字信号を発しているという、かなり驚くべき結果を示した。この英数字の信号は、既知のメーカーのものとは一致せず、「時間的に一定ではなく、その出現は短時間であった」。また、「電磁波のない環境と比較して、電磁波のある環境で発生した信号が非常に際立っている」ことが報告されている。言い換えれば、COVID「ワクチン」接種者は、電磁波と相互作用する体内のBluetooth技術の兆候を示すように見えた。皮膚の下で監視？

歴史的な製薬業界の不正行為 (Anonymous, 2020; Llamas, 2022)、COVID「ワクチン」製造の内部告発者の証言 (Thacker, 2021)、ワクチン業界の被害に対する免責の存在 (Knightly, 2021)、専用のグローバルワクチン™ブランドマネジメントオペレーション (Facher, 2021; Rosen, 2022; 世界銀行, 2022)、COVID政策における利益相反 (Beeley, 2020; Frei, 2021; Matters, 2021)、規制の虜 (Kennedy, 2021)、世界で最も強力な軍産、政治、金融関係者の明確な第四次産業／トランスヒューマニズムのアジェンダ (Broudy & Kyrie, 2021; Kyrie & Broudy, 2022; Matters, 2021)、こうした問いは、不可欠ではないにしても妥当であるように思われる。実際、ウルグアイの行政訴訟裁判所は、ウルグアイ政府とファイザーに対し、『『酸化グラフェン』や『ナノテクノロジー要素』の存在の可能性を含む、ワクチンの組成に関する文書』の提出を求める裁判所命令を出しており (AFP, 2022)、法制度はこうした疑問を真剣に受け止める兆しを見せているように思われる。

一方、多国籍巨人を擁護する科学界の権威によって覆い隠された知識の根本的なギャップは、以下のようなものだった。COVID-19の名の下に何が皮膚下に投入されたのか？ COVID-19「ワクチン」の中身は何なのか、そしてそれはバッチや製造者によってどう違うのか？そして、人間の健康、人間社会、そして人間そ

のものにどのような影響を及ぼすのか？

世界中の研究者や実務家が、COVID-19注射に含まれる未申告で明らかに異様な（バイオ）機械的ナノコンテンツを報告しており（Anonymous, 2022a; Anonymous 2022b; Botha, 2021; Campra, 2021a, 2021b, 2021c, 2022; Delgado, 2022; Ghitalla, 2021a; La Quinta Columna, 2022; Lee et al, 2022; Monteverde et al, 2022; Shelton & Gray, 2021; Young, 2021）、注射された人の血液中に未確認の無機質構造があるという証拠（Anonymous, 2022b; Botha, 2021; Ghitalla, 2021b; Koroknay, 2021; van Welbergen, 2021; Yanowitz, 2022; Young, 2021）と組み合わせ、ワクチンを受けた人のBluetooth接続性が明らかになるという報告（Sarlangue et al., 2021）があり、関連科学文献に基づく一連の可能性が提起されている。「MAC現象」と題する包括的に参照されているビデオプレゼンテーションにおいて、研究者のアンダーソンは、ワクチン接種者に記録された英数字の配列は、メディアアクセス制御（MAC）アドレスとして知られるものを意味すると説明している（Anderson, 2022）。

アンダーソン（2022）は、ワクチン接種者に匿名かつ一時的にEMFに反応するMACアドレスが存在することは、人の身体と外界との間で信号を送受信するためにBluetooth低エネルギー（BLE）周波数を使用するように設計された「体腔内ネットワーク」の存在を示していると推測している。その基礎となるハードウェアは、「体内中心無線通信」を促進することができる「ナノネットワーク」を用いて「人間の皮膚内部のナノマシンの通信」を可能にする技術として科学文献に記載されているマイクロインターフェースまたはナノインターフェースの可能性が高い、と彼は示唆する（Abbasi et al., 2016年）。

主流の学術文献によれば、このような技術の目標は、「モノのインターネット（IoT）」を「ナノシングのインターネット」を介して「身体のインターネット（IoB）」に拡張することである（Akhtar & Purweij, 2020; Gulek, 2022）。ナノシングは、真の「第二次産業革命」（Khan, 2014）と呼ばれるものの中心であり、ナノメートル（1メートルの10億分の1）スケールで存在する材料や現象を中心に展開し、デバイスが単一の原子や分子で構成され、ナノスケールに特有の

性質や振る舞いを持つようになっている超常磁性などの新しい特性や動作を持つナノテクノロジーを生み出している（Bao & Gupta, 2011; Chen et al, 2017; Zapotoczny & Kapusta, 2019）（レビューについては、Akhtar & Perweij, 2020, Arvidsson & Hansen, 2020, and Bayda et al, 2019を参照のこと）。

バイオ・ナノコネクトの実証的証拠

まだ一般的な用語には至っていないが、「ナノマシン間の通信」（Suda et al., 2005）と「ナノ電磁気学」（Rutherglen & Burke, 2008）の技術開発が進行している過程を捉えるために、2010年に「ナノ物体のインターネット」（IoNT）（Akyildiz & Jornet, 2010）という造語が作られた。本研究の当初から、IoNTの代表的な応用として、ガジェットを相互に接続したネットワークだけでなく、「体内ナノネットワーク」（Akyildiz & Jornet, 2010）が期待されていた。

技術的には、人体はナノネットワークを開発するための有望な環境である。ナノマシン単体では、「計算、センシング、作動といった非常に単純なタスクしか実行できない小さなデバイスやコンポーネントを表す」（Suda et al.）しかし、カリフォルニア大学アーバイン校のコンピュータ科学者であるSudaらは、2005年に開催されたGenetic and Evolutionary Computation Conferenceで、「複数のナノマシンが通信すれば、それらが協力して、ナノスケールの計算などの複雑なタスクを実行できるかもしれません」と述べている。同グループは、「例えば、水性環境（人体など）において、イオン、タンパク質、DNAなどのシグナル分子を用いてコミュニケーションが行われれば、ナノマシンはより複雑な計算機能を発揮することができます」と説明している。また、「合成生物学やバイオナノテクノロジーの研究が進んでいるため、近い将来、生体システムから既存のコンポーネント（受容体、ナノスケール反応、コミュニケーション分子など）を適応させて、ナノマシン間の分子コミュニケーションの枠組みを設計することが比較的容易になる可能性があります」ともアドバイスしている。つまり、2005年の時点で、すでに産学協同で、人間などの生きた生物を歩く無線コンピュータネットワークにする態勢が整っていたのである。

この会議の基調講演をしたMITの生物工学者は、

ハラリと同じように、「生物学は、既存の、自然の、進化するシステムから、合成された、操作された、使い捨てのシステムへと、根本的な転換期を迎えている。ここでは、私たちが生物界を体系的にエンジニアリングし始めたときに考慮すべき、社会的、政治的、リスク的な機会と落とし穴のいくつかを論じることになります」と述べ、こうした進展の背景を説明した。(Endy, 2005)。

2022年のその生物界では、IoBとIoNTは、「生物医学、環境、産業、軍事」の目的に役立つだけでなく、「スマート」シティのインフラの一部として「家電、ライフスタイルなどの他の分野」(Abbasi et al., 2016)にも応用されると期待されている(Khan et al., 2020)。そのため、電気技術者やIEEE(技術分野を代表する世界最大の専門家団体で、電気・コンピュータ科学分野の世界の技術文献のほぼ3分の1を作成する組織)の上級会員の間では、皮下のナノマシンは基本的に当然のことと考えられているほど、基礎となる研究開発が至る所で行われている。このように業界に浸透している仮説と革新的なナノ通信技術に関する発見は、未来の製品は人間になるというハラリの宣言と一体のものである。

COVID-19「ワクチン」で提供されるMAC現象に関するアンダーソン(2022)の並行提案の信頼性にとって重要なことは、ナノネットワークのような技術はここ数十年の間に「3倍の指数関数的」速度で発展していると、NASAラングレー研究センターの主任科学者デニス・ブッシュネルは2001年に彼の国家安全保障パートナーに伝えた(Bushnell, 2001)ことである。ナノタグ、「ボーグ」、ブレイン・マシン・インターフェースを含むナノテクノロジー開発は、2001年の時点ですでに進行中であり、「魔法ではない」と、彼は軍事-情報および環境科学の世界の同僚に伝えた(Bushnell, 2001, 2011)。ブッシュネルは2001年の講演で、NASAとDARPA、CIA、国防総省、その他30以上の機関との共同研究の成果を取り上げ、2020年に新しい時代が始まり、技術や社会の風景が根本的に再構成されることを各国の情報機関に「予告」し、これを「バイオーナノ時代」と名付けた。

ブッシュネルは、バイオ・ナノ時代は「社会的混乱」の上に成り立ち、「あらゆるもの／あらゆる人」に「マイクロ波による尋問」を行い、「身分証明のため」に

「密かに『ナノタグ』を付ける」ようになると述べた。言い換えれば、それは、皮膚の下に秘密の監視を導入することを意味する。ブッシュネル(2001)は、武器化されたウイルスと「深刻な『心理戦争』」というバイオ・ナノの未来も予見している。2020年以降、経験的現実にはフィクションを模倣しているように見えるかもしれないが、言い換えれば、「未来の創造」を任務とする国家安全保障機関(O'Keefe, 2002)、すなわちNASAの表明した意図に、非常に近い形で近づいているのである。

NASAの長官であるショーン・オキーフは、2002年にMaxwell School of Citizenship and Public Affairsで、「医療機器からより良いタイヤまで、我々が毎日使い、体験する製品の多くはNASAの技術に由来する」と語り、宇宙開発以上に誇っている。案の定、コーネル大学のウェブサイトに掲載された論文によると、2021年までに「ナノ・シングスのインターネット」は、NASAが予見した「バイオ・ナノ・シングスのインターネット」に道を譲り始めていた。著者らは、バイオ・ナノ・シングスのインターネットは、非従来型の環境、例えば人体内で、非従来型的手段で通信し、「ナノスケールと生物学的デバイスの異種ネットワーク...」の可能性を開くと説明している。その結果、「バイオ領域とサイバー領域の密接な相互作用」が生まれ、「体内連続健康モニタリング」が可能になると彼らは述べている(Kuscu & Unluturk, 2021)。

アンダーソン(2022)は、(バイオ)ナノネットワークと体内モニタリングの既存のプロトコル(Akyildiz & Journet, 2010; Balghusoon & Mahfoudh, 2020; Cruz Alvarado & Bazán, 2019)に基づいて、COVID-19 EUA(緊急使用許可)で密かに組み込まれたかもしれない注射型の体内ネットワークは、人の身体とインターネット間のデータパケット中継のゲートウェイとして携帯電話やウェアラブル機器などの個人デバイスを利用しているであろう、と説明している。このような組み込みは、IoNTの文献に記載されているように、体内ネットワークと「オブボディ(体外)ネットワーク」を統合するアーキテクチャと一致する(例として、Balasubramaniam & Kangasharju, 2013; Balghusoon & Mahfoudh, 2020; Cruz Alvarado & Bazán, 2019を参照)。図1のように予想されるBody-Centric Wireless Networksの図式的表示セレクションについては、付録Aを参照願う。

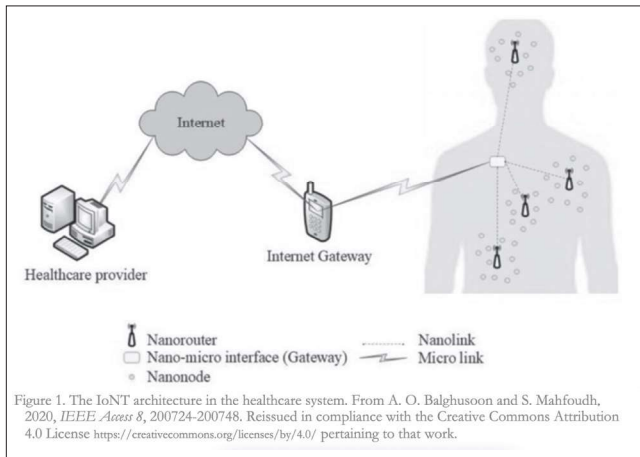


図 1

このようなネットワークの注入可能なコンポーネントの候補として、アンダーソン (2022) は、コンポーネントIoNTアーキテクチャ (Akyildiz & Journet, 2010; Balghusoon & Mahfoudh, 2020; Cruz Alvarado & Bazán, 2019; Lee et al. 2015) に基づいて推測しており、以下を含む:a. ナノデバイス、ナノノードとも呼ばれる (Cruz Alvarado & Bazán, 2019)、ナノセンサー (Balasubramaniam & Kangasharju, 2013; Khan et al. 2020; Lee et al., 2015) などの技術を含む広いカテゴリ。それは、血管内を循環し(図 5)、血流または心拍からエネルギーを採取することができ (Balghusoon & Mahfoudh, 2020)、および/または血液脳関門を通過して神経活動を読み取り、送信することができる (Taylor, 2021)。注射可能の「単一細胞」ナノラジオ (Burke & Rutherglen, 2010; Dolev & Narayanan, 2019)、ナノワイヤ (Dambri et al, 2020)、ナノアンテナ (Akyildiz & Journet, 2010; Lee et al., 2015)、磁性体ナノロボット (Betal et al., 2018)、個々のニューロンおよびシナプスとインターフェースすることができるエンドニューロボ、グリアロボット、「人間の脳/クラウドインターフェース」を作成する (Martins et al, 2019) シナプトロボットからなる神経ナノロボットなどのナノテクノロジー。b. IoNT の文献によると「ナノノードから来る情報の集約者として機能する」ナノルーター (Cruz Alvarado & Bazán, 2019)。体内アプリケーション用を含む20以上のナノルーティングプロトコルのレビューについては、Balghusoon and Mahfoudh (2020) を参照、および、c. Balghusoon and Mahfoudh (2020) によって「ナノ世界を外界と統合する複合ハイブリッドデバ

イス」として定義されているナノインターフェースまたはゲートウェイ。

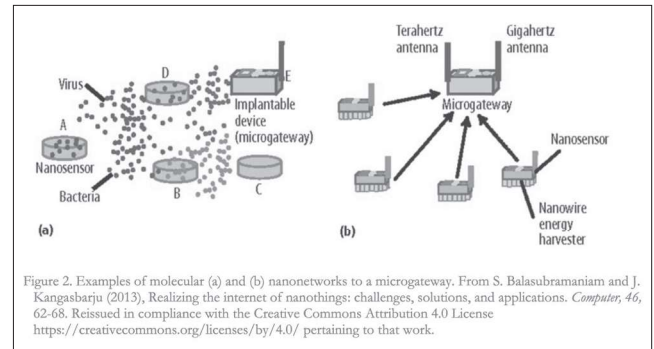


図 2

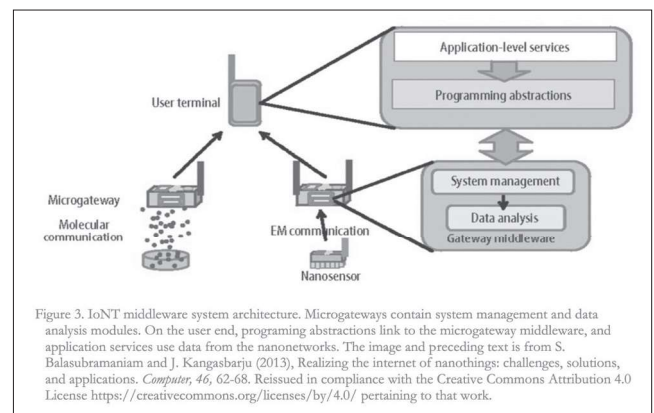


図 3

例えば、BalasubramaniamとKangasharju (2013) は、体内分子通信と電磁波通信の両方を利用して外界と接続できる体内無線ナノネットワークアーキテクチャ(図 2 および図 3 参照)の次に挙げるナノコンポーネントについて説明している：ナノセンサー、埋め込み型マイクロゲート、外部マイクロゲート、環境発電ナノワイヤ、および携帯電話。Akyildizら (2015) は、「グラフェンなどのナノ材料」の有望性に触発され、「隠蔽可能で非侵入型」のネットワーク通信およびコンピューティングにおけるIoBNTパラダイムシフトについて詳述している。

カーンら (2020) は、「分子通信パラダイム」と題するイメージ画像において、「スマートシティへの応用」とともに「ボディエリアネットワーク」に関連する4つのアレンジを描いている。(a) 拡散型分子通信。(b) 微小管を用いた有線アクティブ分子通信。(c) バクテリアを用いた無線分子通信 (d) 磁場をかけない場合の過酸化水素水中の触媒ナノロッド (A) とかけた場

合(B)」(Khan et al., 2020, p.7参照)。

イメージ画像には、「放出」を担う「送信ナノマシン」と「受信」を担う「受信ナノマシン」の間で、薬品送達や体内生理モニタリングなどの体内機能を実現するための、異なる分子伝達方法を示す3つのシナリオが表示されている。あるシナリオでは、分子が送信側ナノマシンから受信側ナノマシンへ「流体媒体」を介して拡散している様子が描かれている。また、「微小管」の中を分子が「分子モーター」を介して送信機から受信機のナノマシンに移動する様子や、「ナノロボットの運び屋」として機能するバクテリアが、「DNAベースの情報」を内包した「推進用べん毛」を使って送信機から受信機へ移動する様子も描かれている。

さらに、体内で自律的に動くナノロボットへと可能性を広げ、磁場のないところではランダムに動き、磁気の影響を受けると特定の方向に動く2つの「触媒ナノロッド」を描いた4つ目のシナリオもある。これらのようなナノロッドは、紫外線や近赤外線、超音波、磁場を用いて「ワイヤレスで遠隔制御」でき、「多くの到達困難な細胞組織」を含む体内の「標的位置への制御ナビゲーション」を実現できることから、「マイクロジェットおよびマイクロポケット」と呼ばれている(Mei et al., 2008)。その到達地で、ナノロッドは、積載薬品を送達し、不要な細胞を殺し、「細胞に深く浸透する」ことができる「マイクロドリラー」として機能し、「毎秒15万8000体長以上の著しく高い平均速度を達成し、組織に深く浸透し変形する強い推進力を与える」(Zha et al., 2018年)。

Canovas-Carrascoら(2018)は、52分ごとに通信し、血流からエネルギーを作り出し、TeraHertz帯を介して信号を送受信する、血管内のナノルーターとナノノードからなる人間の手に組み込まれたBody Area Nano-network(図4)を描写している。各ナノノードは、(i)ナノプロセッサ、(ii)メモリーナノモジュール(RAMおよびROMメモリー)、(iii)グラフェン放射線通信ナノシステム、(iv)ナノセンサー、(v)エネルギーナノジェネレーターで構成されている。

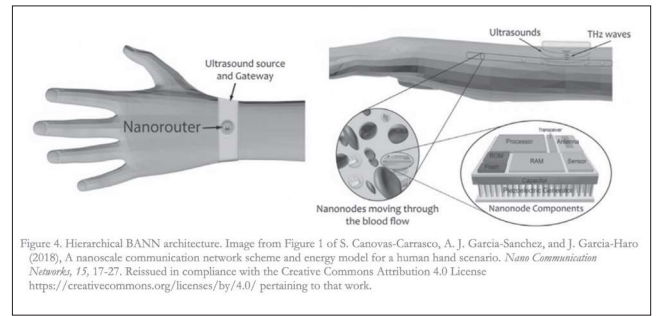


図4

端的に言えば、ナノテクノロジーと「スマート」テクノロジーを組み合わせ、人体をインターネットに接続し、体内にナノロボットを配備する技術、プロトコル、業界の意図、政府の計画が存在するかどうかについては争点になっていないのである。その存在があることは火を見るよりも明らかである。唯一明らかでない問題は、その計画が現在、密かに進行しているのか、進行しているとすればどのように進行しているのか、そして、ハラリが未来の世代が「コロナウイルスの流行は、新しい監視体制、特に皮膚の下の監視が開始された瞬間として」(Harari, 2020c) 振り返ることになる、と言ったことが、このことを意味しているか、ということだけである。ハラリの発言が、バイオ・ナノ・インターネット・オブ・シングスを実現するための体内部品の大量注入を指しているとすれば --IoBNTの文献に基づく妥当な仮説だが-- それを「21世紀の最も重要な発展」(Harari, 2020c) と呼ぶのは筋が通っているだろう。

いずれにせよ、私たちが倫理と道徳、肉体と精神、そして社会と人間性を損なわずに、来るべき「身体インターネット」と「バイオ・ナノのインターネット」を切り抜けるためには、真実を追求する科学の規範に従って、次のような研究課題を問い、答えなければならない：COVID-19ワクチン内にナノルーターを発見したと結論付けたPablo Campraは正しいか？その発見は、他の研究室でも確実に再現できるのか？あらゆる国における同様の発見の報告についてはどうか(Anonymous, 2022a; Anonymous 2022b; Botha, 2021; Campra, 2021a, 2021b, 2021c, 2022; Delgado, 2022; Ghitalla, 2021a; La Quinta Columna, 2022; Lee et al, 2022; Shelton & Gray, 2021; Young, 2021)、例えば、COVIDワクチンバイアル内の動く構造物を記録したオーストラリアの研究者は、その構造物は近く

の携帯電話をオンにすると点灯し、携帯電話をオフにすると再び暗くなるように見えた (Zee, 2022) と報告している。

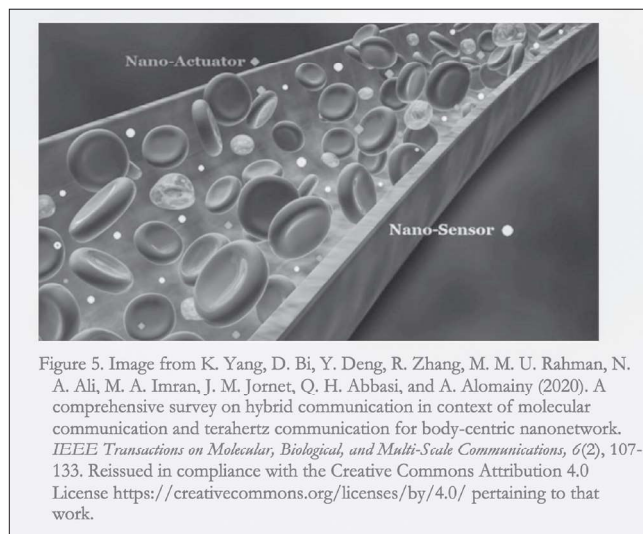


図5

もし人間が、グローバル市場向けのネットワーク化されたコミュニケーションの広大な実験における被験者や潜在的な製品に過ぎないとすれば、「グローバル資本の福音」によって、新しい人工オペレーティングシステムの電池を再充電することを毎日促されることは、確かに合理的である (図6)。



図6

何が可能かについての我々の理解の再構成は根本的なものでなければならないが、われわれは、技術的変化の「トリプル指数」(Bushnell, 2001) のスピードに合わせて、心理的・概念的に飛躍するか、或いは自称シリコンバレーの神が人工的に「インテリジェント」で魂のないイメージで我々を再形成しようとするのを許すか、そのどちらかを迫られているのである。

人類滅亡に動じない？

ここで紹介したどの事実も、読者を驚かせるものではないであろう。覇権主義的な社会統制があらゆるもの、あらゆる人に対して常に達成されるというテクノクラートの秩序の接近に対する警告は、何十年にもわたって影響力の高い領域から明確に表現され続けてきた。特に戦後、ドワイト・D・アイゼンハワー大統領は、「軍産複合体」(Broudy & Arakaki, 2020) が出現し、不当な巨大影響力を行使しているという文脈で、テクノクラティック・ディストピアを最も分かりやすい言葉で語っている。また、「公共政策そのものが科学技術エリートの人質になりかねない」(Eisenhower, 1961) という危険性にも注意を払わなければならない」と述べている。

アイゼンハワーより4年前に、オルダス・ハクスリーは、ジャーナリストのマイク・ウォレスとのインタビューの中で、世界に警告を発していた。ハクスリーは、来るべき時代について、テクノクラートの巨人たちによってコントロールされたコミュニケーションが、我々の理性的な能力を奪い、トロイの木馬のように我々の心を開いて、我々の人権、行為主体性、主権に対する攻撃に同意するようになることを予言している。ハクスリーは、1920年代にウォルター・リップマンが提唱した、役人は自らが率いる人々の「同意をでっち上げなければならない」(1922年) という格言から話を始めている。

そしてそれは、私が『ブレイブ・ニュー・ワールド』で予見したように、部分的には麻薬によって、部分的にはこの新しいプロパガンダの技術によって行われるであろう (1958年)。

その10年前に、パートランド・ラッセルは「寡頭政治における科学技術」について講演し、将来、テクノクラートのエリートが新しい道具や技術を駆使して社会をより広く支配するようになる時代について論じている。そこでは、市民に押し付けられる技術的、薬学的介入に社会が同意するためには、効果的にプロパガンダに扇動された大衆が中心となる。

食事や注射や命令によって、幼い頃から、当局が望ましいと考えるような性格や信念が形成され、

権力者に対する真剣な批判は心理的に不可能になる。たえずすべての人が悲惨であっても、政府が幸せだと言うので、すべての人が自分を幸せだと信じるようになる (Russell, 1951年、50ページ)。

人間と技術革新の融合を正常化するためのプロパガンダは、何十年にもわたって続いてきた。視聴者を楽しませ、人間と機械の融合の可能性を正常化した最も人気のあるテレビネットワークシリーズは、1970年代の「Six Million Dollar Man」だったかもしれない。グローバルなトランス・ヒューマン・アジェンダの暗黙の、そして明示的なメッセージは、その後も衰えることなく続き、科学的空想 (SF) から新しい技術的規範のための政府資金に支えられた科学的事実へと移行してきた。イーロン・マスクの、人間はすでにサイボーグであるという2019年の主張を思い起こしてほしい (CNBC, 2019)。

結論

私たちがこの科学文献、実験データ、言説の調査で統合したものは、実験プラットフォームを注入された人々に示された磁気 (Broudy & Kyrie, 2021) の分析で概説された関連性と発見についての理解を拡大するものである。私たちは、科学的な追求は、何よりも、世界に関する経験的な真実を獲得するためではなく、世界の権力を獲得するためであるというハタリを告白を思い起こす。「サイエンス™を信頼する」ということは、権力に貪欲な人々が設定したそのアジェンダと結果を信頼することである。もし私たちが、政治権力がいかに「その政策を神秘化[し]、何かそうでないものと呼ぶか、或いは...隠そうとするかによって[資本の]蓄積過程に関与しなければならないか (O'Conner, 2002)」、またいかに国民が兵器化された科学研究に対して相対的に無知でいなければならないか (Miller, 2018)、熟考できるのなら、人体のバイオナノ侵略と科学エスタブリッシュメント™から発せられる宣言の背後にある実際の理由が見え始めるであろう。

バイオ・ナノ時代は、すべての生物学的薬剤の金融化と商品化を要求する。したがって、権力のあらゆる手段が、利用可能なすべての管理レベルで、人間の在庫を管理するために働かなければならない。現時点では、反人間的なトランスヒューマン技術巨人の非人間

的な力に対する闘争に、人間は負けているように見えるかもしれない。しかし、ユヴァル・ハラリの壮大なレトリックは、必死さとも取れる。反社会的なグローバル・トランスヒューマンズ運動は、それ自身とその信奉者を確実に滅ぼすものと、私たちは提言する。この運動は、他者を葬るために掘った穴に自分が葬られることになることを自ら明らかにしている。人間の創造性、多才さ、適応性、脅威に立ち向かい克服しようとする集団的意志の全容を解明する気がないことに、完全に目をつぶっているように見える。権力が自らを酔わせ、合理的思考、道徳、共感を放棄したとき、権力は悪性の自己破壊の軌道に乗り出す。

文献

- Abbasi, Q. H., El Sallabi, H., Chopra, N., Yang, K., Qaraqe, K. A., and Alomainy, A. (2016). Terahertz channel characterization inside the human skin for nano-scale body-centric networks. *IEEE Transactions on Terahertz Science and Technology*, 6(3):427-434.
<https://ieeexplore.ieee.org/document/7446338>
- ACM: Association for Computing Machinery. (2005). Genetic and Evolutionary Computation Conference Program (GECCO-2005).
<http://www.sigevo.org/gecco-2005/forms-docs/program-05.pdf>
- Adams, M. (2022). Shocking microscopy photos of blood clots extracted from those who “suddenly died” - crystalline structures, nanowires, chalky particles and fibrous structures. *Natural News*.
<https://www.naturalnews.com/2022-06-12-blood-clots-microscopy-suddenly-died.html>
- AFP. (2022). Uruguayan Justice asks the government and Pfizer to clarify components of anticovid vaccines. *France 24*.
<https://www.france24.com/es/minuto-a-minuto/20220703-justicia-uruguay-pide-al-gobierno-y-a-pfizer-aclarar-componentes-de-vacunas-anticovid>

- Akyildiz, I. F., and Jornet, J. M. (2010). The internet of nano-things. *IEEE Wireless Communications*, 17(6):58-63.
<https://ianakyildiz.com/bwn/surveys/nanothings.pdf>
- Akyildiz, I. F., Pierbon, M., Balasubramaniam, S., and Koucheryavy, Y. (2015). The Internet of Bio-nano Things. *IEEE Communications Magazine* 53(3):32.
https://www.researchgate.net/publication/273780747_The_internet_of_Bio-Nano_things
- Akhtar, N., and Perwej, Y. (2020). The internet of nano things (IoNT) existing state and future Prospects. *GSC Advanced Research and Reviews*, 5(2), 131-150. [PDF]
- Anderson, M. (2022). The MAC Phenomenon and the intracorporeal network of nanocommunications: A review. *Rumble*.
<https://rumble.com/v15a4r1-the-mac-phenomenon-in-people-vaccinated-from-covid19.html>
- Anonymous. (2020). The biggest ever pharmaceutical lawsuits. *Pharmaceutical Technology*.
<https://www.pharmaceutical-technology.com/analysis/biggest-pharmaceutical-lawsuits/>
- Anonymous. (2022a). Annexure U: Vaccine investigations in Australia. *Open Letter to ATAGI, TGA and Federal Health Department*.
https://www.covidmedicalnetwork.com/open-letters/AnnexU_LBA_&_Vaccine_Anomalies.pdf
- Anonymous. (2022b). Nanotech in the shots? Web archive.
<https://archive.md/O8uUS>
- Anonymous. (2022c). Annexure U: Blood investigations in Australia. *Open Letter to ATAGI, TGA and Federal Health Department*.
https://www.covidmedicalnetwork.com/open-letters/AnnexU_LBA_&_Vaccine_Anomalies.pdf
- Arvidsson, R., and Hansen, S. F. (2020). Environmental and health risks of Nanorobots: An early review. *Environmental Science: Nano*, 7(10), 2875-2886. [PDF]
- Auken, I. (2020). Welcome to 2030: I own nothing, have no privacy, and life has never been better. *Forbes*.
<https://www.forbes.com/sites/worldeconomicforum/2016/11/10/shopping-i-cant-really-remember-what-that-is-or-how-differently-well-live-in-2030/?sh=69fc4d711735>
- Balghusoon, A. O., and Mahfoudh, S. (2020). Routing protocols for wireless nanosensor networks and internet of nano things: a comprehensive survey. *IEEE Access*, 8, 200724-200748.
<https://ieeexplore.ieee.org/stamp/stamp.jsp?arnumber=9247091>
- Balasubramaniam, S., and Kangasharju, J. (2013). Realizing the Internet of Nano Things: Challenges, Solutions, and Applications. *Computer*, 46, 62-68.
<https://www.computer.org/csdl/magazine/co/2013/02/mco2013020062/13rRUxNmPHo>
- Bao, N., and Gupta, A. (2011). Self-assembly of superparamagnetic nanoparticles. *Journal of Materials Research*, 26(2), 111-121.
<https://doi.org/10.1557/jmr.2010.25>
- Bayda, S., Adeel, M., Tuccinardi, T., Cordani, M., and Rizzolio, F. (2019). The history of nanoscience and nanotechnology: From chemical-physical applications to nanomedicine. *Molecules*, 25(1), 112-127.
<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC6982820/>
- Beeley, V. (2020). Who controls the British Government response to Covid-19? *UK Column*.
<https://www.ukcolumn.org/article/who-controls-british-government-response-covid19-part-one>
- Betal, S., Saha, A.K., Ortega, E., Dutta, M., Ramasubramanian, A.K., Bhalla, A.S., and Guo, R. (2018). Core-shell magnetoelectric

- nanorobot - A remotely controlled probe for targeted cell manipulation. *Scientific Reports*, 8, Article 755.
<https://doi.org/10.1038/s41598-018-20191-w>
- Botha, Z. (2021). Never before seen: Blood doctor reveals horrific findings after examining vials. *Stew Peters Show*.
<https://www.redvoicemedia.com/2021/10/never-before-seen-blood-doctor-reveals-horrific-findings-after-examining-vials/>
- Boyd-Barrett, O. (2022). Thoughts about Weapons in the Context of the NATO-Russia War. *Propaganda in Focus*.
<https://propagandainfocus.com/thoughts-about-weapons-in-the-context-of-the-nato-russia-war/>
- Broudy, D., and Arakaki, M. (2020). Who Wants to Be a Slave? The Technocratic Convergence of Humans and Data. *Frontiers in Communication*.
<https://doi.org/10.3389/fcomm.2020.00037>
- Broudy, D., & Kyrie, V. (2021). Syllogistic reasoning demystifies evidence of COVID-19 vaccine constituents. *International Journal of Vaccine Theory, Practice, and Research*, 2(1), 149-171.
<https://doi.org/10.56098/ijvtp.v2i1.23>
- Broudy, D., & Kyrie, V. (2022). The Serpent and the Staff: Symbols of Safety and Security in the Propaganda of a Global Medical Tyranny. *Propaganda in Focus*.
<https://propagandainfocus.com/the-serpent-and-the-staff-symbols-of-safety-and-security-in-the-propaganda-of-a-global-medical-tyranny/>
- Brown, W. (2015). Undoing the Demos: Neoliberalism's Stealth Revolution. New York: Zone Books. [Google Books]
- Burke, P., and Rutherglen, C. (2009). Toward a single-chip, implantable RFID system: Is a single-cell radio possible? *Biomedical Microdevices*, 12(4), 589-596.
<https://doi.org/10.1007/s10544-008-9266-4>
- Bushnell, D. (2001). Future Strategic Issues/Future Warfare.
<https://docs.google.com/file/d/0B1WWhFzUqUvU3cxRkozZlFVX2M/preview?resourcekey=0-QZxTzi7eqczkyAPqdLRnOQ>
- Bushnell, D. (2011). BlueTech Forum 2011 - Keynote presentation - Dennis Bushnell, Chief Scientist, NASA Langley. BlueTech Research. YouTube.
<https://www.youtube.com/watch?v=TIPBTllxKEU>
- Campra, P. (2021a). Detection of graphene in Covid19 vaccines by micro-raman spectroscopy: Technical report.
https://www.dropbox.com/s/tnnq4ftw818chmx/FINAL_VERSION_CAMPRA_REPORT_DETECTION_GRAPHENE_IN_COVID19_VACCINES.pdf?dl=0
- Campra, P. (2021b). Microscopic objects frequently observed in mRNA Covid19 vaccines.
<http://dx.doi.org/10.13140/RG.2.2.13875.55840>
- Campra, P. (2021c). MICROSTRUCTURES IN COVID VACCINES: Inorganic crystals or Wireless Nanosensors Network?
https://www.researchgate.net/profile/Pablo-Campra/publication/356507702_MICROSTRUCTURES_IN_COVID_VACCINES_inorganic_crystals_or_Wireless_Nanosensors_Network/links/61a4d94eee3e086e3d3a6756/MICROSTRUCTURES-IN-COVID-VACCINES-inorganic-crystals-or-Wireless-Nanosensors-Network.pdf
- Campra, P. (2022). DNA crystals nanotechnology in Covid19 vaccines.
https://www.researchgate.net/publication/358284707_DNA_CRYSTALS_NANOTECHNOLOGY_IN_COVID19_VACCINES

- Canovas-Carrasco, S., Garcia-Sanchez, A. J., and Garcia-Haro, J. (2018). A nanoscale communication network scheme and energy model for a human hand scenario. *Nano Communication Networks*, 15, 17-27.
https://www.researchgate.net/profile/Sebastian-Canovas-Carrasco/publication/322878259_A_nanoscale_communication_network_scheme_and_energy_model_for_a_human_hand_scenario/links/5c37433592851c22a369e8bf/A-nanoscale-communication-network-scheme-and-energy-model-for-a-human-hand-scenario.pdf
- Cao, W., He, L., Cao, W., Huang, X., Jia, K., and Dai, J. (2020). Recent progress of graphene oxide as a potential vaccine carrier and adjuvant. *Acta biomaterialia*, 112:14-28.
<https://doi.org/10.1016/j.actbio.2020.06.009>
- Chayefsky, P. (1976). *Network*.
<https://www.scriptslug.com/assets/scripts/network-1976.pdf>
- Chen, X.-Z., Hoop, M., Mushtaq, F., Siringil, E., Hu, C., Nelson, B. J., and Pané, S. (2017). Recent developments in magnetically driven micro- and Nanorobots. *Applied Materials Today*, 9, 37-48.
<https://doi.org/10.1016/j.apmt.2017.04.006>
- CNBC. (2020). Why Elon Musk says we are already cyborgs.
<https://www.cnn.com/video/2019/08/29/why-elon-musk-says-we-are-already-cyborgs.html>
- Cruz Alvarado, M. A., & Bazán, P. (2019). Understanding the Internet of Nano Things: overview, trends, and challenges. *E-Ciencias de la Información*, 9(1), 152-182.
<https://www.redalyc.org/journal/4768/476862662008/476862662008.pdf>
- Dambri, O. A., Cherkaoui, S., and Makrakis, D. (2022). Design and evaluation of a receiver for wired nano-communication networks. *IEEE Transactions on NanoBioscience*.
<https://arxiv.org/pdf/2009.11805.pdf>
- Delgado, M.R. (2022). Identification of possible micro-technology and artificial patterns in Pfizer vaccine using optical microscopy.
<https://www.docdroid.net/n36IOrk/identificacion-de-microtecnologia-y-patrones-artificiales-en-vacuna-pdf>
- Dolev, S., and Narayanan, R. (2019). Towards radio transceiving in-vivo nano-robots. *SN Applied Sciences*, 1:** 969.
<https://doi.org/10.1007/s42452-019-1001-7>
- Dugan, R. (2013). Badass. All Things Digital Conference.
<https://www.wsj.com/video/regina-dugan-at-d11-badass/60D5FF10-B73E-48A7-92B4-49D23A18A78A.html>
- Eisenhower, D.D. (1961). Eisenhower's other warning - about a scientific technological elite. YouTube.
https://www.youtube.com/watch?v=fRb_9l-3I3w
- Endy, D. (2005). Keynote address: Engineering biological systems. *Genetic and Evolutionary Computation Conference Program (GECCO-2005)*:5.
<http://www.sigevo.org/gecco-2005/forms-docs/program-05.pdf>
- Enerio, D. (2022). Mysterious Disease Is Killing Hundreds In Australia. *Medical Daily*.
<https://www.medicaldaily.com/mysterious-disease-killing-hundreds-australia-465567>
- Facher, L. (2021). The White House is set to unveil a wide-reaching, billion-dollar campaign aimed at convincing every American to get vaccinated. *STAT*.
<https://www.statnews.com/2021/03/15/white-house-unveil-a-wide-reaching-billion-dollar-campaign-convincing-every-american-to-get-vaccinated/>
- Frei, R. (2021). The modelling paper mafiosi. *Off Guardian*.
<https://off-guardian.org/2021/02/18/the-modelling-paper-mafiosi/>

- Ghitalla, B. (2021a). New microscope analysis of vaccines & effect on blood. TimTruth.com. https://video.wixstatic.com/video/baa363_9e987f7c382c42d98ce2c794bc46586f/720p/mp4/file.mp4
- Ghitalla, B. (2021b). German Doctors and Lawyers Assess Blood Smears from People Who Have Had Covid Injections. *Exposing Their Lies*. <https://www.exposingtheirlies.com/post/german-doctors-and-lawyers-assess-blood-smears-from-people-who-have-had-covid-injections>
- Gulek, O. (2022). Extending lifetime of Wireless Nano-Sensor Networks: An energy efficient distributed routing algorithm for Internet of Nano-Things. **Future Generation Computer Systems*, 135:382-393. <https://doi.org/10.1016/j.future.2022.05.009>
- Harari, Y.N. (2015a). Yuval Noah Harari and Daniel Kahneman interview. YouTube. https://www.youtube.com/watch?v=-3aPT8MuH_E
- Harari, Y.N. (2015b). Harari, Y. (2015). Yuval Noah Harari on the myths we need to survive. *Intelligence Squared*, YouTube. <https://www.youtube.com/watch?v=UTchioiHM0U>
- Harari, Y.N. (2016). The Future of Humanity. *The Royal Institution*, YouTube. <https://www.youtube.com/watch?v=XOmQqBX6Dn4>
- Harari, Y.N. (2017). Yuval Noah Harari Gives A Brief History Of Tomorrow. WGBH. YouTube. https://www.youtube.com/watch?v=HmY2or_0wSk
- Harari, Y.N. (2018a). Will the future be human? *World Economic Forum*, YouTube. <https://www.youtube.com/watch?v=hL9uk4hKyg4>
- Harari, Y.N. (2018b). Globalization Over Nationalism: Historian Yuval Noah Harari | *India Today* *Conclave*, YouTube. <https://www.youtube.com/watch?v=VenomHl4D5k>
- Harari, Y.N. (2018c). Yuval Noah Harari Q&A Session at the WEF Annual Meeting 2018. YouTube. <https://www.youtube.com/watch?v=rvjHVPLfwng>
- Harari, Y.N. (2018d). Yuval Noah Harari in Conversation with RUSI chairman, Lord Hague of Richmond. YouTube. <https://www.youtube.com/watch?v=HYqonHGLhGo>
- Harari, Y.N. (2020a). Yuval Noah Harari in conversation with Sara Pascoe. YouTube <https://www.youtube.com/watch?v=18Oyqn6ahGg>
- Harari, Y.N. (2020b). The Tim Ferriss Show transcripts: Yuval Noah Harari on the story of Sapiens, forging the skill of awareness, and the power of disguised books (#477). *The Tim Ferriss Show*. <https://tim.blog/2020/10/30/yuval-noah-harari-transcript/>
- Harari, Y.N. (2020c). Yuval Noah Harari In Conversation With Rahul Kanwal. *India Today*, YouTube. https://www.youtube.com/watch?v=YPm-JP_1G38
- Harari, Y.N. (2020d). Panel Discussion: Technology and the Future of Democracy. *Athens Democracy Forum*, YouTube. <https://www.youtube.com/watch?v=W2z2dufityI>
- Harari, Y.N. (2020e). Yuval Noah Harari on COVID-19's Impact on Humankind. *The Late Late Show with James Corden*, YouTube. <https://www.youtube.com/watch?v=sRRhvwkV7L0>
- Harari, Y.N. (2020f). Coronavirus: Yuval Noah Harari, philosopher and historian, on the legacy of Covid-19. *BBC HARDtalk*,

- YouTube*.
<https://www.youtube.com/watch?v=gfVrin7Ybp8>
- Harari, Y.N. (2021a). Dialogue: The Geopolitics of Technology. *Athens Democracy Forum, YouTube*.
<https://www.youtube.com/watch?v=KlFMEeOer3E>
- Harari, Y.N. (2021b). Hebrew University's Prof. Yunal Noah Harari on the era of the coronavirus: Living in a new reality. The Hebrew University of Jerusalem, *YouTube*.
<https://www.youtube.com/watch?v=ltJTRnNLYqY&t=1s>
- Harari, Y.N. (2022). Frans de Waal & Yuval Noah Harari - Empathy, Ecological Collapse & Humanity's Future Challenges. *YouTube*.
<https://www.youtube.com/watch?v=g8gStd80vwY>
- Huxley, A. (1958). The Dictatorship of the Future. (interview with Mike Wallace)
<https://archive.org/details/aldous-huxley-the-dictatorship-of-the-future>
- Kennedy Jr., R.F. (2021). *The Real Anthony Fauci: Bill Gates, Big Pharma, and the global war on democracy and public health*. New York: Skyhorse Publishing.
<https://www.skyhorsepublishing.com/9781510766815/the-real-anthony-fauci/>
- Khan, A.S. (2014). Ethics and nanotechnology. *IEEE Xplore*.
<https://ieeexplore.ieee.org/document/6893462>
- Khan, T., Civas, M., Cetinkaya, O., Abbasi, N. A., and Akan, O. B. (2020). Nanosensor networks for smart health care. In *Nanosensors for Smart Cities* (pp. 387-403). *Elsevier*.
https://www.researchgate.net/profile/Oktay-Cetinkaya-2/publication/339260608_Nanosensor_networks_for_smart_health_care/links/600c738292851c13fe3206c6/Nanosensor-networks-for-smart-health-care.pdf
- Knightly, K. (2021). 30 facts you NEED to know: Your Covid cribsheet. *Off Guardian*.
<https://off-guardian.org/2021/09/22/30-facts-you-need-to-know-your-covid-cribsheet/>
- Koroknay, A. (2021). What are the effects of anti-Covid vaccines on our blood. *Ethical Citizen*.
https://video.wixstatic.com/video/baa363_88af53ff56c64c43ad2d03156edc831e/720p/mp4/file.mp4
- Kuscu, M. and Unluturk, B.D. (2021). Internet of Bio-Nano Things: A Review of Applications, Enabling Technologies and Key Challenges. *Computer Science Emerging Technologies*.
<https://arxiv.org/abs/2112.09249>
- Kyrie, V., and Broudy, D. (2022). Hidden in Plain Site: Technocratic Tyranny Behind a Medical Mask. *Propaganda in Focus*.
<https://propagandainfocus.com/hiding-in-plain-sight-technocratic-tyranny-behind-a-medical-mask/>
- Langer, S. (1957). *Philosophy in a New Key: a Study in the Symbolism of Reason, Rite, and Art*. Cambridge: Harvard University Press.
<https://philpapers.org/rec/LANPIA-21>
- La Quinta Columna. (2022). Pfizer Covid injection [special report] graphene, microtechnology, teslaphoresis. *Rumble*.
<https://rumble.com/vsy8bp-pfizer-covid-injection-special-report-graphene-micro-technology-teslaphores.html>
- Lee, S. J., Jung, C. A., Choi, K., and Kim, S. (2015). Design of wireless nanosensor networks for intrabody application. *International Journal of Distributed Sensor Networks*, 11(7), Art. no. 176761.
http://csc.columbusstate.edu/lee/publications/IJDSN_176761-2015.pdf
- Lee, Y.M., Park, S. & Jeon, K. (2022). Foreign materials in blood samples of recipients of COVID-19 vaccines. *International Journal of Vaccine Theory Practice and Research*, 2(1),

- 249-265.
<https://ijvtpr.com/index.php/IJVTpr/article/view/37/74>
- Lippmann, W. (1922). *Public Opinion*. New York: Harcourt Brace. [Web]
- Llamas, M. (2022). Pfizer. *Drug Watch*.
<https://www.drugwatch.com/manufacturers/pfizer/>
- Martins, N. R., Angelica, A., Chakravarthy, K., Svidinenko, Y., Boehm, F. J., Opris, I., Lebedev, M. A., Swan, M., Garan, S. A., Rosenfeld, J. V., Hogg, T., and Freitas, R. A. (2019). Human brain/cloud interface. *Frontiers in Neuroscience*, 13, Article 112.
<https://doi.org/10.3389/fnins.2019.00112>
- Matters, R. (2021). mRNA “vaccines”, eugenics & the push for transhumanism. *Off Guardian*.
<https://off-guardian.org/2021/08/28/mrna-vaccines-eugenics-the-push-for-transhumanism/>
- Mei, Y., Huang, G., Solovev, A. A., Ureña, E. B., Mönch, I., Ding, F., Reindl, T., Fu, R. K., Chu, P. K., & Schmidt, O. G. (2008). Versatile approach for integrative and functionalized tubes by strain engineering of Nanomembranes on polymers. *Advanced Materials*, 20(21), 4085-4090.
<https://doi.org/10.1002/adma.200801589>
- Miller, L. (2018). The History Disruptor. *Slate*.
<https://slate.com/culture/2018/11/youval-noah-harari-sapiens-facebook-silicon-valley-hollywood.html>
- Miller, S. (2018). Dual Use Science and Technology, Ethics and Weapons of Mass Destruction. Cham, Switzerland: Springer Briefs in Ethics
- Moderna. (2020). mRNA Platform: Enabling Drug Discovery & Development. Moderna.
<https://www.modernatx.com/power-of-mrna/science-of-mrna?>
- Monteverde, M., Femia, A., and Lafferrière, L. (2022). Microscope vials.
<https://www.docdroid.net/LotSygr/analisis-argentino-de-los-viales-astrazeneca-pfizer-sinopharm-compressed-pdf#page=65>
- Musk, E. (2019). Why Elon Musk says we are already cyborgs. *CNBC*.
<https://www.cnbc.com/video/2019/08/29/why-elon-musk-says-we-are-already-cyborgs.html>
- O'Connor, J. (2002/1973). The Fiscal Crisis of the State. New Brunswick, NJ: Transaction Publishers.
- O'Keefe, S. (2002). Pioneering the future. NASA.
<https://www.nasa.gov/about/highlights/Pioneering.html>
- Phillips, P. (2018). *Giants: The Global Power Elite*. New York: Seven Stories Press.
<https://www.sevenstories.com/books/4097-giants>
- Rosen, A.T. (2022). The “science” of manipulation: Researchers craft messages of guilt, shame to foster vaccine compliance. *The Defender*.
<https://childrenshealthdefense.org/defender/manipulation-guilt-shame-vaccine-compliance/>
- Royal Institution. (2022). How we're run. *The Royal Institution Website*.
<https://www.rigb.org/about-us/how-were-run>
- Russell, B. (1951). The Impact of Science on Society. New York: AMS Press.
<https://philpapers.org/rec/RUSTIO-2>
- Rutherglen, C. and Burke, P. (2009). Nanoelectromagnetics: Circuit and electromagnetic properties of carbon nanotubes. *Small*, 5(8):884-906.
<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/abs/10.1002/sml.200800527>
- Sarlangue, G., Devilleger, J., Trillaud, P., Fouchet, S., Taillason, L., and Catteau, G. (2021). Projet Bluetooth Expérience X.
<http://www.nakim.org/israel-forums/download.php?id=920-->
- Serling, R. (1961). The Obsolete Man. [episode] *The Twilight Zone*. YouTube

- <https://www.youtube.com/watch?v=VOYYCkVazBI>
- Shelton, M., and Gray, S. (2022). Nanotech found in Pfizer jab by New Zealand lab: Sue Grey Co-leader of Outdoors and Freedom Party and Dr Matt Shelton report findings to Parliament's Health Select Committee. <https://odysee.com/@spearhead4truth:e/Nanotech-discovery-280122:9>
- Sinclair, S., McHugh, N., and Roy, M. J. (2019). Social innovation, financialisation and commodification: A critique of social impact bonds. *Journal of Economic Policy Reform*. 24(1). <https://www.tandfonline.com/doi/abs/10.1080/17487870.2019.1571415>
- Suda, T., Moore, M., Nakano, T., Egashira, R., Enomoto, A., Hiyama, S., and Moritani, Y. (2005). Exploratory research on molecular communication between nanomachines. *Genetic and Evolutionary Computation Conference (GECCO), Late Breaking Papers*, 25:29. <http://gpbib.pmacs.upenn.edu/gecco2005lbp/papers/40-suda.pdf>
- Taylor, I. (2021). The injectable nanosensor that will one day read your thoughts. *BBC Science Focus Magazine*. <https://www.sciencefocus.com/news/the-injectable-nanosensor-that-will-one-day-read-your-thoughts/>
- Thacker, P. D. (2021). Covid-19: Researcher blows the whistle on data integrity issues in Pfizer's vaccine trial. *British Medical Journal*, 375, n2635. <https://doi.org/10.1136/bmj.n2635>
- van Welbergen, P. (2021). Dr Philippe (Part 2) - The Blood Slides. *Loving Life TV*. <https://lovinglifetv.com/dr-philippe-part-two-the-blood-slides-12-february-2022/>
- Walt, V. (2019). Is 'Biochipping' A Good Idea? *Fortune*. <https://fortune.com/longform/biochipping-biohax-microchip/>
- WEF World Economic Forum (2020). *The Future of Nature and Business*. New Nature Economy Report II. Geneva. https://www3.weforum.org/docs/WEF_The_Future_Of_Nature_And_Business_2020.pdf
- World Bank. (2022). Heidi J. Larson: Director, the Vaccine Confidence Project. *World Bank Blogs*. <https://blogs.worldbank.org/team/heidi-j-larson>
- Yang, K., Bi, D., Deng, Y., Zhang, R., Rahman, M.M.U., Ali, N.A., Imran, M.A., Jornet, J.M., Abbasi, Q.H., and Alomainy, A. (2020). A comprehensive survey on hybrid communication in context of molecular communication and terahertz communication for body-centric nanonetworks. *IEEE Transactions on Molecular, Biological and Multi-Scale Communications*, 6(2), 107-133. <https://arxiv.org/pdf/1912.09424.pdf>
- Yanowitz, S. (2022). Evidence of self-assembling structures in C19 injection vials. *Team Enigma*. <https://www.bitchute.com/video/e9mvTko2Ts0T/>
- Young, R.O. (2021). Scanning & transmission electron microscopy reveals graphene & parasites in CoV-19 vaccines. DrRobertYoung.com <https://www.drrobertyoung.com/post/transmission-electron-microscopy-reveals-graphene-oxide-in-cov-19-vaccines>
- Zapotoczny, S. and Kapusta, C. (2019). Special issue "Superparamagnetic Materials", *Materials*, 12(11). <https://www.mdpi.com/journal/materials/special-issues/superparamagnetic-materials>
- Zeee, M. (2022). Exclusive: Australian whistleblower scientists provide evidence of nanotech & graphene oxide in COVID-19 injections. *Zeee Media*.

<https://zeeemedia.com/interview/exclusive-australian-whistleblower-scientists-provide-evidence/>

Zha, F., Wang, T., Luo, M., & Guan, J. (2018). Tubular Micro/nanomotors: Propulsion mechanisms, fabrication techniques and applications. *Micromachines*, 9(2), 78. <https://doi.org/10.3390/mi9020078>

付録 A.

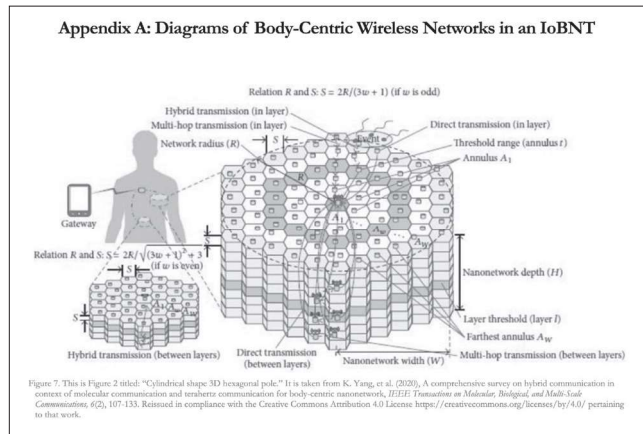


図 7

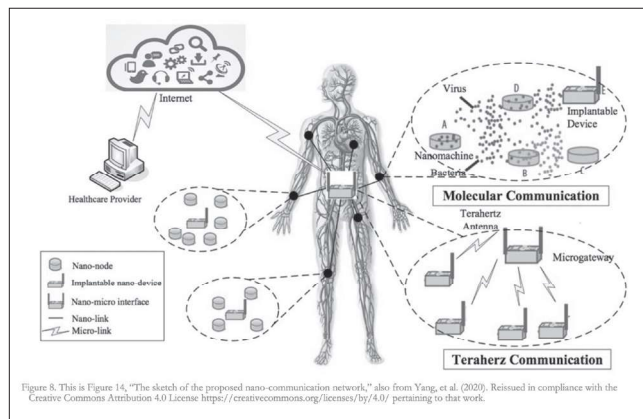


図 8

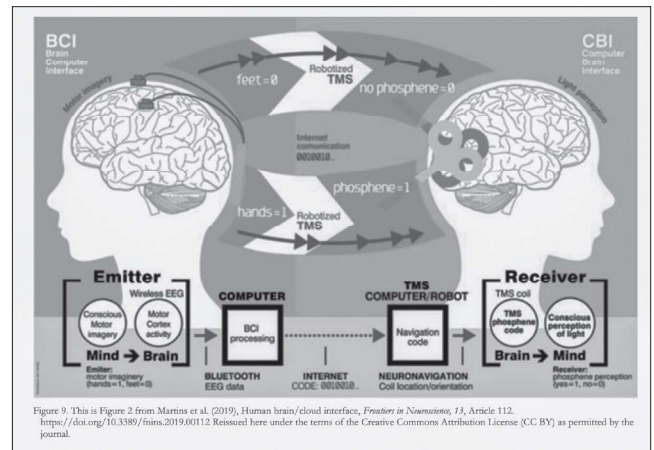


図 9

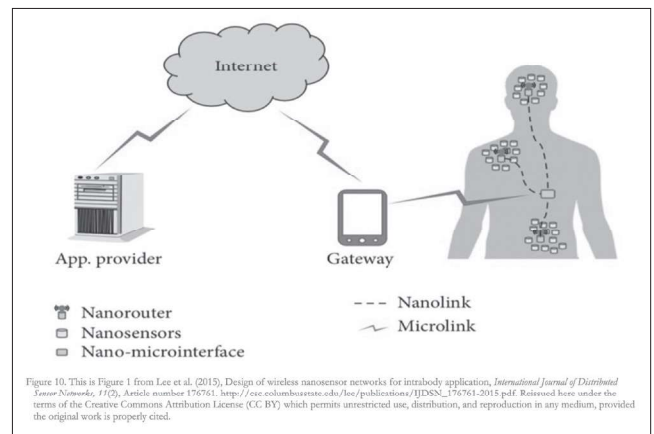


図 10

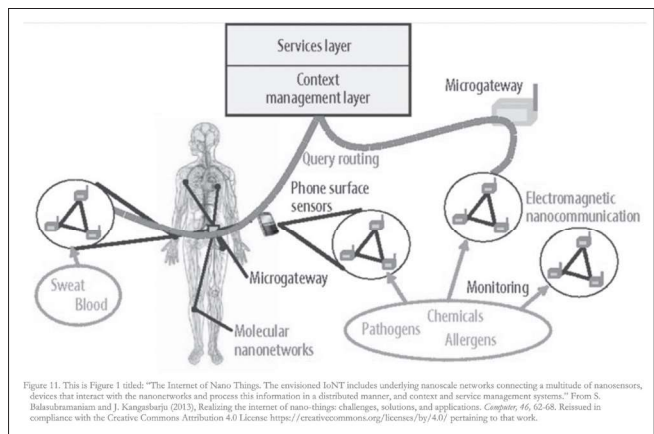


図 11

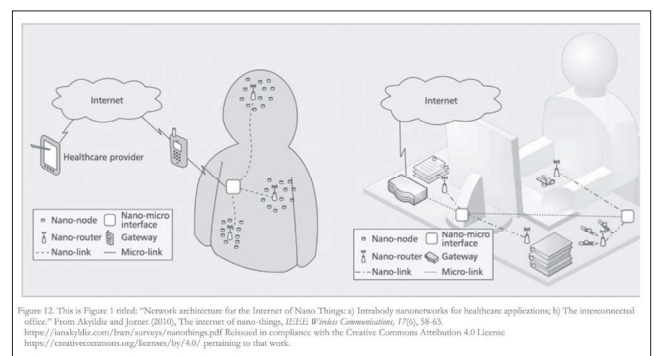


図 12

Cyborgs R Us: The Bio-Nano Panopticon of Injected Bodies?

A. David Ulvog • Lissa Johnson & Daniel Broudy

Abstract

A survey and critical analysis of literatures in biotech, nanotech, and materials science can yield important insights on major threats facing humanity in a world divided largely by highly compartmentalized epistemic communities. Interdisciplinary research on the well-documented problems posed to human beings by the injectable mRNA platforms claiming to address COVID-19 medical complications reveal surprising, if not deeply troubling, new evidence of apparent fraud and deceit. Analysis presented here bolsters both the reported laboratory studies of blood samples from injected subjects and experimental work exploring the potential reasons for observed phenomena relating to electromagnetic properties exhibited in human bodies. The impetus for this cross-disciplinary study was current reports from a substantial proportion of injected subjects who emitted alphanumeric signals in the frequency range corresponding to Bluetooth communications networks. Discussion of these bizarre phenomena are framed by a wider historical context in nanotechnology as an emergent industry and by recent commentary emanating from noteworthy public figures concerning surveillance under the skin and the disappearance of civil and human rights.

Keywords : BioNano Age, Bluetooth connectivity, IoB, IoBNT, IoT, IoNT, MAC phenomenon, mRNA platforms, transhumanism